

# 「新たなレベル分類」に関する 補足説明資料

# 1. 指標の考え方について

(レベル1の指標)

- レベル0の「新規感染者数ゼロを維持できている状況」との国の分科会における考え方に基づき、散発的に感染者が確認されているかどうかを指標として設定。

(レベル2の指標)

- 国の分科会において、「地域の実情に合わせて、保健所のひっ迫も考慮し、病床使用率や新規陽性者数も含め、都道府県が具体的な数値を設定する」とされている。
- 道では、従来の警戒ステージ3の指標の水準を超えると急速に感染が拡大し、3～4週間程度でレベル3の指標となる病床使用率が50%近くに達したことから、「新規感染者数10万人当たり15人」「病床使用率20%」「療養者数10万人当たり20人」を指標として設定。(P2参照)

(レベル3の指標)

- 国の分科会において、「①予測ツールに基づき3週間後に必要とされる病床数を推計し、確保病床数に到達した場合、又は②病床使用率や重症病床使用率が50%を超えた場合」とされている。
- 道では、予測ツールの特性や課題を踏まえ、「病床(重症病床)使用率50%」を指標として設定。

(レベル4の指標)

- 「最大確保病床数を超えた数の入院が必要となる」との国の分科会における考え方に基づき設定。

## 【予測ツールの運用について】

予測ツールは、感染者数が少ない場合には、相対的にブレ幅が大きくなり、精度が低くなるといった課題があることから(P6参照)、実際の新規感染者数、病床使用率等の水準に加え、感染経路不明割合や陽性率といった指標を踏まえながら、感染状況等の分析や評価を行う際などに活用する。

## 第5波における実績

- ワクチン接種がある程度進んだ第5波の実績に当てはめると、新規感染者数と療養者数はほぼ同日に、病床使用率は新規感染者数等から数日後に、レベル2の基準に到達。
- レベル2の水準を超えてから、3～4週間程度でレベル3の水準に到達。

項目		全道	札幌市	
			札幌市	札幌市以外の地域
レベル2	新規感染者数 10万人当たり15人を超えた日	7月26日 15.3人	7月15日 15.2人	8月1日 16.9人
	療養者数 10万人当たり20人を超えた日	7月25日 20.2人	7月15日 20.5人	8月1日 21.0人
	病床使用率 20%を超えた日	7月29日 21.7%	7月16日 20.7%	8月6日 21.6%
レベル3(または最高値)までの日数		36日	25日	29日
レベル3	病床使用率 50%を超えた日	— (参考)最高値 8月30日 49.6%	8月9日 50.9%	— (参考)最高値 8月30日 42.0%

# 全道

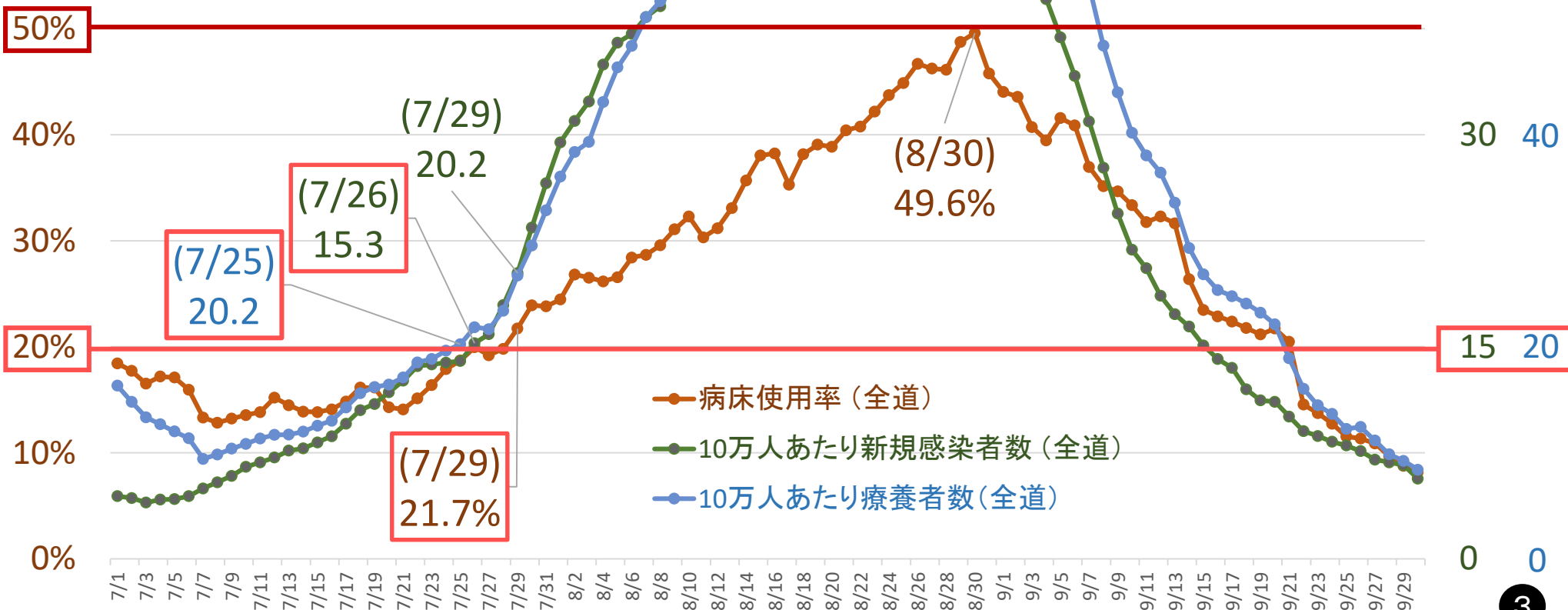
10万人あたり感染者数 (人/週)  
10万人あたり療養者数 (人)

病床使用率

80%  
70%  
60%  
50%  
40%  
30%  
20%  
10%  
0%

**新規感染者数の増加速度**

10人⇒15人 8日間  
15人⇒20人 3日間  
20人⇒25人 2日間



# 札幌市

10万人あたり感染者数 (人/週)

10万人あたり療養者数 (人)

75 100

60 80

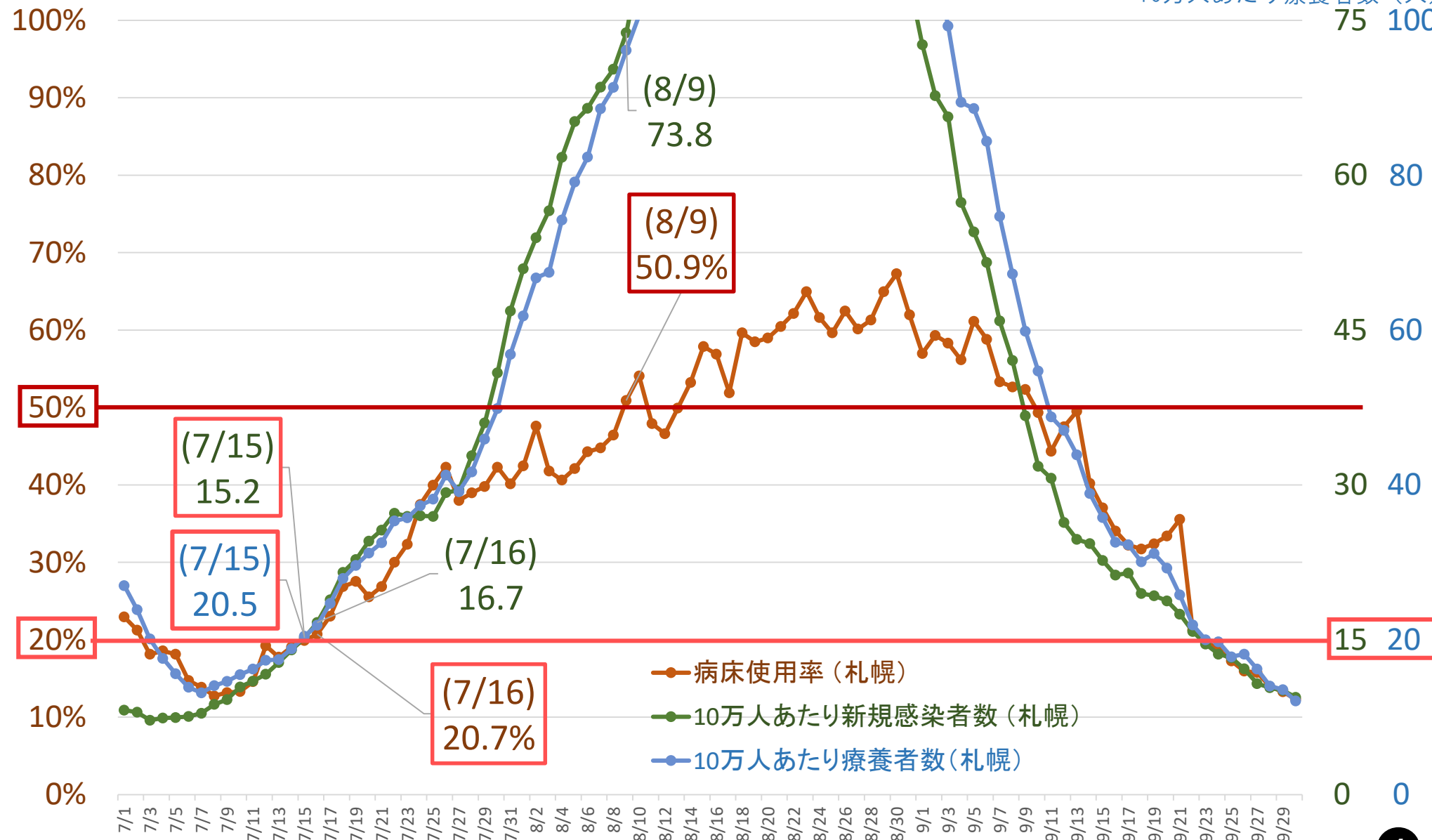
45 60

30 40

15 20

0 0

病床使用率



● 病床使用率 (札幌)  
 ● 10万人あたり新規感染者数 (札幌)  
 ● 10万人あたり療養者数 (札幌)

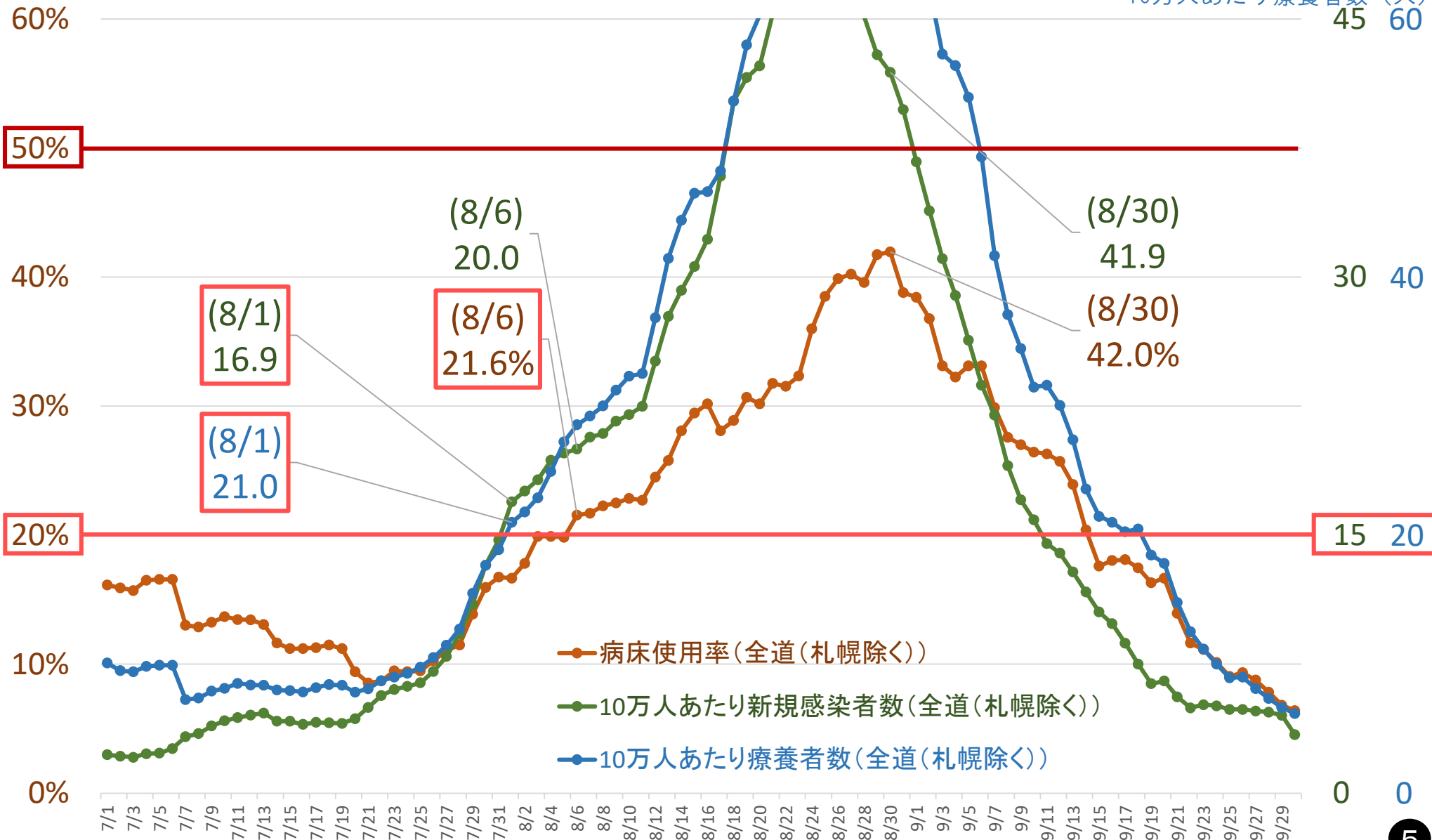
# 全道（札幌市以外の地域）

10万人あたり感染者数（人／週）

10万人あたり療養者数（人）

45 60

病床使用率



# 医療需要の予測ツールの概要

(令和3年11月8日(月)新型コロナウイルス感染症対策分科会資料抜粋)

## <医療需要予測ツール>

○ ワクチンの接種状況、重症者や中等症患者の発生率も考慮し、新規感染者数に応じて、その後の医療負荷を予測。

【入力する項目】 シミュレーション時の感染規模、感染スピード、ワクチン接種率、医療需要

【設定されている項目】 ワクチンの有効性、治療薬の状況、重症化率、入院期間 等

【予測結果】 1~4週間後において必要と思われる確保病床数、重症者数 等

## <用途>

○ 予測した必要な確保病床数が、現在の確保病床数を超える場合に、「医療体制の拡充や対策の強化が必要」といった判断の参考に使用する。

○ 予測結果をもとに必要な対策を適切なタイミングで行うことで、予測ツールで推定された状況を避けることが期待。

## <注意点等>

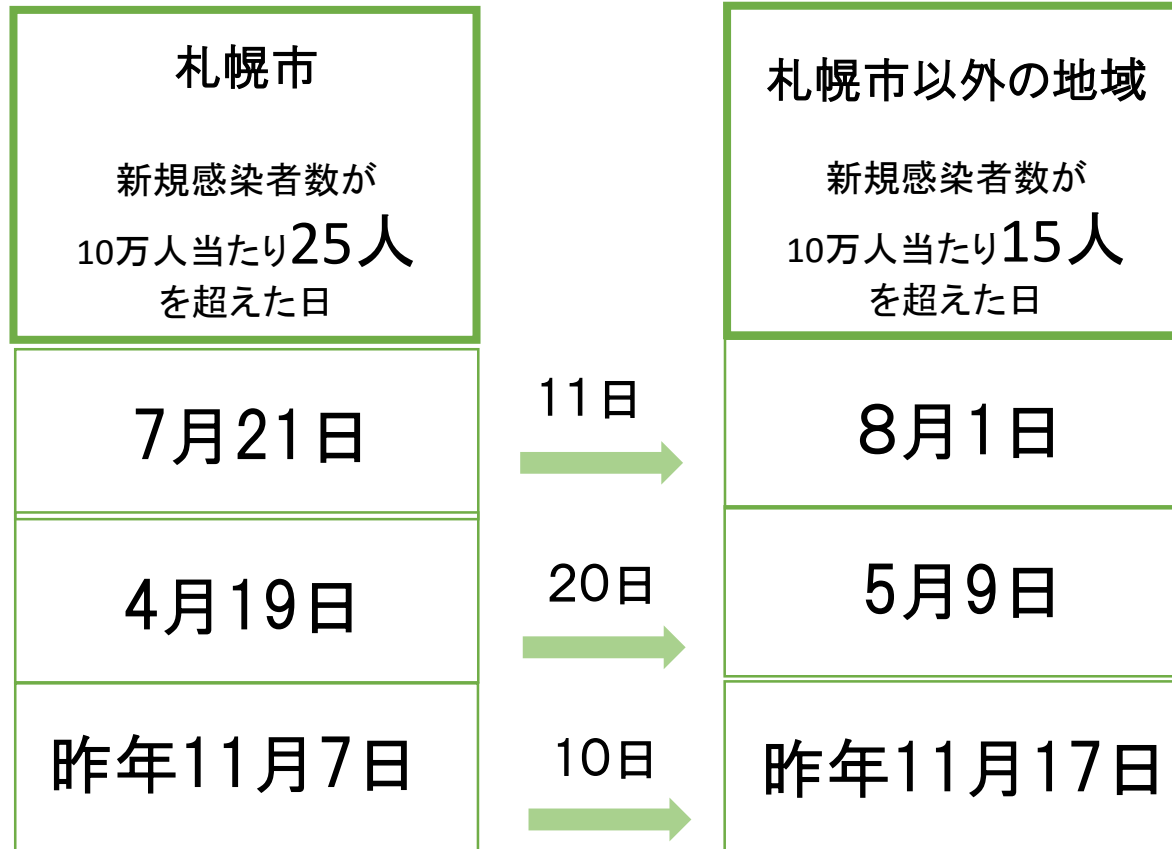
○ 感染者数が少ない場合には、相対的にブレ幅が大きくなり、精度が低くなることに注意が必要である。

○ 4週間にわたって感染拡大が同じスピードで進むと想定しており、実際には感染状況等に応じて人々の行動が変化しうるため、結果通りになる蓋然性は高くない。

○ 【検査陽性者数】や【今週/先週比】は、一時的に大きく変動しうるため、予測結果も大きく変動する。

## 2. 札幌市の感染拡大の影響について

○ これまでの感染拡大局面においては、札幌市内において感染が広がり、その後、全道に波及。





## 医療需要の予測ツールについて

### <医療需要の予測ツールの概要>

新規感染者数や新規感染者の今週／先週比等を入力することで、ワクチン接種状況や重症者・中等症患者の発生率等を考慮した、1～4週間後に必要とされる確保病床数や重症者数を推計。

### <国の感染症対策分科会の考え方>

- 各レベルで、都道府県は必要な対策を講じるタイミングについて、医療需要の予測ツールや様々な指標を使用して総合的に判断。
- レベル2では、都道府県は予測ツールや様々な指標を使用して予測の見える化を推進。
- レベル3への移行については、都道府県は、①予測ツールやその他の様々な指標に基づき「3週間後に必要とされる病床数」を推計し、推計値が確保病床数に到達した場合、または、②病床使用率や重症病床使用率が50%を超えた場合、感染状況その他様々な指標も併せて評価し、総合的に判断。

### <課題>

- 国の感染症対策分科会において予測ツールについて以下の課題も提示
  - ・ 感染者数が少ない場合には、相対的にブレ幅が大きくなり、精度が低くなることに注意が必要である。
  - ・ 4週間にわたって感染拡大が同じスピードで進むと想定しており、実際には感染状況等に応じて人々の行動が変化しうるため、結果どおりになる蓋然性は高くない。
  - ・ 【検査陽性者数】や【今週／先週比】は、一時的に大きく変動しうるため、予測結果も大きく変動する。
- 道における第5波の実績に当てはめた場合においても、新規感染者数の今週／先週比の変動が大きく影響する、新規感染者数が少ない場合には精度が低くなる場合がある、といった傾向が見られた。